

## 社 報



## 荷物の行方

## 安全個人表彰

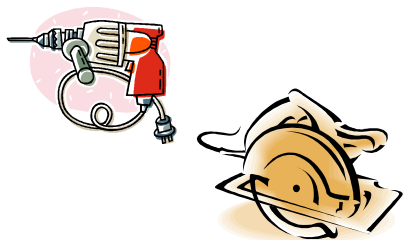
7月2日に新日鉄エンジニアリング西日本支社の安全大会が開催されました。

当日は当社より、坂本組の杉野職長が安全表彰をいただきました。

坂本組の皆さんには、杉野職長を中心に、当社の評価を高めていただき、ありがとうございます。

今後も、さらに腕を磨いて「良い仕事」をお願いします。

## 7月は電気工具を点検！



## 感電災害に注意しましょう

## 汗と電気は危ない！

最近では宅配便でも郵便小包でも、荷物の追跡サービスが行われています。依頼主が荷物の配達を依頼すると、依頼された配達会社は配達先へ荷物を届けます。これが、本来の配達会社の仕事であり、配達会社は、依頼主からの荷物を、確実に配達先へ届けることができれば、仕事を達成したことになります。

ひと昔前では、この配達業務さえを確実にやっておれば良かったのですが、先に述べた追跡サービスでは、お客様からお預かりした荷物は、

営業所にあります、とか、営業所を出ましたとか、××営業所に届きました、配達に出発しました、などと荷物を追跡して、そのありかをインターネットなどでお知らせをしてくれます。これらの通知を行うには、多額の設備投資をして、システムを整備しなければなりません。

では配達会社は、本来の意味では仕事ではない業務をなぜするようになったのでしょうか。

それは「お客様の安心」と言う点にあると思います。

荷物の配達を依頼した人は、自分

が頼んだ荷物は、きちんと運ばれているのか心配になる時があります。

そんな時に、追跡サービスで品物の配達状況を確認できると安心します。

お客様は安心を得て、配達会社は信頼を得るわけです。

私達の仕事も、今述べた配達会社の感覚で仕事をしなければなりません。依頼された仕事は確実にやっても、それで合格点は得られないと覚えるべきです。フォービルに仕事を依頼すれば、仕事の進行状況は定期的に連絡があり、先々の手配についても検討をしている、など、お客様が安心できる仕事振りを見せなければなりません。

黙っていても確実な仕事をする、は現代の社会では時代遅れなのです。仕事の成果と同時に、お客様が安心できるように、仕事の経過を連絡することも重要な仕事で、それが無ければ、お客様の信頼は得られません。

お蔭様で、2008年度決算無事に終えることができました。皆様方のご指導・ご協力にお礼と感謝を申し上げます。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 今月も行動災害が発生

7月6日(月) 11:00頃  
ニチレイロジスティックセンターの現場にて、ビームを架設しようと、構台上からビームを手で掴み移動しようとしたところ、ビームが倒れてきて、左顔に当り負傷した。(階高が高いのでビームの架設・解体用に構台が組まれていた。)

被災者：松岡 吉巳さん

経験：30年(型枠大工)

所属：浦谷部-荒木工務店

傷病：左外眼角部挫創

休業見込：0日間

ビームが倒れてきて反射的に避けたのでしょうか、目にケガが無くて良かったのですが、ひとつ間違えば、失明の危険もある危険な事故でした。

基本は「自分で守る」ご安全に！

## 2009年 安全成績

現場災害 H21.1.1-H21.7.9

休業災害 ----- 1

不休災害 ----- 1

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 2

交通災害 H21.1.1-H21.7.9

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 1

合計 ----- 1